



国際化の最前線から

国際化の最前線から



持続可能な開発目標 (SDGs) を地域で考える

NPO法人開発教育協会 / DEAR 事務局長 中村 絵乃

持続可能な社会をつくるためには、「変革」が必要！

持続可能な開発目標 (SDGs) は、世界が抱える貧困・飢餓・環境などの課題について、各国政府が 2030 年までに達成することを約束した世界共通の目標である。

持続可能性とはなんだろう。例えば、あるワークショップで投げかけた「自分が住む地域で持続可能なもの・ことは何か？」という問いに対して出てきたのは、地産地消、助け合い、祭り、自治会などだった。一方で「持続可能ではないもの・こと」については、会社経営、大量消費大量生産、エネルギーの使い方、働き方、教育などととも、持続可能なものでも出ていた祭りも挙がった。地域の状況により変わらと思うが、「持続可能かどうか」という視点で見ると、問題の本質が見えてくる。つまり、地域の中の資源や人材、意思決定の方法や、人々の関係性、権力の所在、そして、地域の外 (国内外含めて) との関係である。そして、持続可能ではないものの多さに気づくだろう。

SDGs が生まれた背景には、現在の社会がいまだに深刻な貧困や格差、気候変動や環境問題などを抱えており、このままでは地球が続かないという認識がある。その危機感を示すように、2015 年 9 月の国連総会で採択された文書は「我々の世界を変革する～持続可能な開発のための 2030 アジェンダ～」というタイトルになっている。部分的に「改革」するのではなく、全く新しいものになるという「変革」を使っているところに、覚悟が感じられる。そして「誰一人取り残さない」という合言葉とともに、社会の中で特に弱い立場に置かれている人に焦点を当てている。

では、持続可能でないものを持続可能にする「変革」をすすめるのは、誰だろうか？ 日本政府も SDGs 推進本部をつくり、NGO や市民団体も SDGs 市民社会ネット



SDGs ワークショップの様子
©開発教育協会

ワーク(注1)を立ち上げ、それぞれの立場で SDGs に取り組んでいる。そんな中で、自治体や地域はとても重要な SDGs の担い手である。

地域で進める SDGs

例えば、地域で行われている「教育」は持続可能だろうか？ SDG4 (目標 4) は「誰もが質の高い教育を受けること」を目指している。各地域で、この目標において取り残されている人は誰だろうか？ 質の高い教育とはどのようなものだろうか？ 地域に住む外国にルーツをもつ児童・生徒たちは、必要な教育を受けられているだろうか？ 障害を持つ人や高齢者は、いつでも希望の学習をする機会があるだろうか？

多くの場合、取り残されている人は、既存の制度や法律からこぼれてしまっている人である。そうであれば、制度の方を問い直す必要がある。地域にどのような人が住んでいるのか、一人ひとりが持続可能な社会づくりの主体として、どのような地域を作りたいのか、話し合うことができる。

実際に北海道では、市民が学習会を重ね、北海道の独自の地域目標を作成した(注2)。このような取り組みは、既にほかの地域でも始められている。

変革の覚悟とともに策定された目標を、絵に描いた餅にしないように、地域の SDGs を考えることは重要である。その時の主役は私たち市民である。

開発教育協会では SDGs の推進に関する教材や資料を作成しているので、ぜひ、お問い合わせいただきたい。

(注 1) (一社)SDGs 市民社会ネットワーク
<http://www.sdgscampaign.net/>

(注 2) 「SDGs 北海道の地域目標をつくろう」
NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」、2017 年
<http://www.sapporoyu.org/>

プロフィール

中村 絵乃 (なかむら えの)

開発教育・グローバル教育・地球市民教育など、地球的課題を参加型で学ぶ教育の実践・研究を行う。ファシリテーターとして、学校や地域における学びの場を支援している。

【NPO 法人開発教育協会 (DEAR)】

ウェブサイト：www.dear.or.jp